

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>具体的に定めていないが、地域の方にグループホームを理解して頂けるよう利用者の方々の、日々の暮らしぶりや行事等の活動状況を掲載した広報誌を定期的に地域に発送している。管理者は利用者本意の心で接する様に職員に啓発している。</p>	<p>○</p> <p>地域密着型サービスとしての理念とは何かを管理者は掘り下げて考える必要がある。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>幅広い意味での理念として、利用者の緊急時に対する対応や重度化した場合の指針を定めて家族から同意を頂いている。ADLが低下した場合でも看取りをふくめてグループホームで対応可能な範囲の限度まで定めておりその考えを職員と共有している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>行事の予定やその行事の様子、又ボランティアの活動状況、職員紹介などを掲載して定期的に家族や地域に発送しているが理念を理解して頂けるような取り組みはしていない。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>事業所が地域活動に参加はしていないが、逆に、夏祭りや敬老会などを開催して地域の方が気軽に立ち寄ったりボランティアとして協力して頂いたりなど、グループホームでの行事を通じて地域の方との交流がもてていると言える。又、自主消防隊を近隣地域の方々に委嘱して不時の災害に備えており地域の方々に利用者の生活を側面から支援していただいている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を実施するにあたって今までは、管理者主導といえる、したがって職員は、その意義を十分に理解していたとは言い難い。評価員の助言や評価結果に対しては謙虚に受け止め改善に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>前年度までは、概ね管理者が作成したのに対して職員が加筆や訂正を行ってきたが、今年度からは各項目をランダムに振り分けて、実際に職員に作成させた、その意味では職員は日々の業務を顧みる良い機会となっている。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議をまだ実施していない。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議の要綱を作成し、委員の人選もできている、早急に実施する予定である。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>疑問に思ったり、質問をしたい事項がある時などは、その都度丁寧に回答、又は助言を頂いている。</p>	<p>○</p> <p>市町村とのやりとりは主に、介護保険法に関する問い合わせ等に限られる、さらに幅広く連携をとりサービスの質の向上につなげていきたい。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>それらの研修に管理者は参加している。</p>	<p>○</p> <p>研修には参加しているが、それらの申し立ての仕方についてや、その後の職務についてなどさらに理解を深める必要がある。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者の虐待に関する研修には職員に積極的に参加させている、又事業所内では、虐待が見過ごされないよう注意をしている、又身体の虐待のみならず言葉の虐待にも注意を払っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入退居にあたっては家族又は利用者と十分に話し合い納得されたうえでやっている。</p>	
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見、不満、苦情又は悩み等に対して、必要であれば、家族も混じえて問題の解決に取り組んでいる、又苦情処理担当者を設けて苦情に対応する体制にある。</p>	
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、健康状態、生活状況、お預かり金の出納状況や特記すべきお知らせなどを記載して、各家族に定期的に発送している。身体状態や精神状態に、特変がみられた場合はその都度お知らせしている。</p>	
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各棟の責任者が柔軟に対応しており必要に応じてその問題などを家族と解決に向けて話しあっている。家族アンケートを実施してその結果を活かしている。</p>	<p>○ 家族アンケートならびに利用者アンケートも含めて今後も実施したいと考えている。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>当会幹部職員による連絡会議を通じる等、必要に応じて管理者が、その意見を汲み取って、運営者に伺いを立てている。運営者は必要に応じてその意見を概ね反映させている。</p>	
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>各棟の責任者は、入居者の生活をまず第一に考え、柔軟に勤務調整を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当法人は開設4年目に入ったばかりであり、事業所間での人事異動はまだ行っていない。当面これを継続するつもりで、利用者はなじみの職員ときわめて良好な関係を保っていると自負している。管理者を始め開設当初からの職員が約7割を占め、良好な関係の要因にもなっている。		
5.人材の育成と支援			
17 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設4年目の法人で、組織内で計画的に人材育成をする体制には至っていない。そこで県立保健大学を始め各機関での外部研修の受講を積極的に促し、職員全員1年1受講を目指している。なお、初任者研修はVTRにより実施している。		
18 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地区認知症GH協議会を始め、同業者団体に加盟して、研修会や講演会などに積極的に参加してサービスの質向上に努め、交流を深めている。情報交換の場としても重要である。		
19 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事を離れてのリフレッシュ、元気回復対策として、夏季特別休暇の付与、納涼会や忘年会を実施して職員のストレス解消に努めている。	○	施設外レクリエーションとして旅行会等も実施して職員間の親睦を図りたい。
20 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年間1職員1研修受講目標の設定は職員の向上心を促す手段として有効と考えている。ケアマネなど上級資格を目指す職員には模擬試験受験には出勤扱いするなど便宜を与えている。研修受講を努力の評価としている。	○	職員の勤務状況を客観的に評価する手段として、勤務評定の実施に努めたい。永年勤務対策として、退職金制度の導入など福利厚生対策を進めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けた際は担当介護支援専門員や本人・家族と面接を行い、まずは利用にあたる経緯等をよく聴きその人が一番今、何を必要としているか把握するよう努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>随時、他関係機関と連携を図りチームとして本人や家族を支援している、特に主治医の意見や助言は、そのサービス利用の大きな鍵といえる。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族の意向を基に職員間で話し合い、また随時他利用者へも説明し、本人・家族へ相談をしながら馴染める努力はしている。又事前に、団体生活ゆえに起こり得るリスクも話している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>喜怒哀楽を大切にし、利用者・職員お互いに支えあっていく人間関係の構築をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や毎月発行するお便りなどを通して利用者の過ごしている状況・利用者が訴えている事など報告をし、本人・家族・職員お互いに情報の共有を図っている。必要に応じて家族と話し合う機会を設けている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の話や本人の話を傾聴し、家族関係の理解は概ねしており、様々な状況にも対応できるよう努力している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、婦人会などに席があった方には婦人部主催の催し物への参加の支援を行うなど、個別に対応している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別の状態観察・性格の把握に努めており、食事の席など考慮し、孤立しないよう努めている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も苑を訪問してくださる家族はおり、気軽に立ち寄れる雰囲気作りやふれあいの場作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>認知症の進行の程度にもよるが、本人の意向は必ず聞き、また家族にも相談し出来る限り本人本位で行う努力はしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居する際には本人・家族から情報を得ており、また状況に応じて他関係機関とも連絡を取り、把握している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>今年度よりセンター方式にてアセスメントを行い利用者の総合的な把握に努めている。</p>	<p>センター方式についてさらに理解していく必要がある。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当・ユニット長・計画作成担当でアセスメントを行いながら介護計画を作成しており、本人・家族を含まないで介護計画を作成している。したがって家族から同意を得る際には、ほとんどの場合、作成後のものに伺いを立て、同意を得ている。</p>	<p>作成時には利用者・本人・家族を交えて計画書を作れるよう場面作りをしていく必要がある。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>長期・短期計画を定期的に見直しており、状態の変化があった際は随時計画の変更を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が介護計画を把握しており、また毎日の記録用紙にもプランの内容が盛り込まれており、見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望があれば宿泊や食事の提供なども可能であり、又家族と共有できる行事等行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向の沿った形での支援ではないが、ボランティアの協力により菜園や花壇を作って頂いており、利用者は四季を楽しんでいる。		
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない。		本人の意向や必要性に応じてインフォーマルなサービスの支援も行っていきたい。
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとのやりとりがなく協働していない。		権利擁護・成年後見制度などの相談を受けた場合に備えて一般的な手続きや相談できる関係機関などを把握しておく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれに主治医があり、毎月の定期受診や、状況に応じた対応を行っている。又皮膚科、歯科医師には往診をして頂いており、継続した医療が受けられるように支援を行っている。通院時には付き添いを行っている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医との連携はないが、各主治医に診断、治療を行ってもらっている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤で従事しており日常の健康管理に努めている。病院調整等も行っている。24時間のオンコール体制ができている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院をした場合でも、3ヶ月は居室を確保しており、安心して治療に専念できるようにしている。常時医療が必要な状態になった場合は家族との話し合いの元、医療機関との連絡を行っている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約する際に、緊急時の対応・重度化したときの指針を定めて説明を行い納得されたうえで同意をいただいている。終末期・重度化した場合のグループホームの対応については、そのときの状況にあわせて、家族はもちろんの事、職員と話し合いその方針を共有している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した時、終末期と診断された時は主治医・家族・苑の管理者との話し合いの場を設け今後について検討し、一緒に考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退居時には、他関係機関へ情報提供をするなど連携を行っている。個人情報の取り扱いについては予め家族から同意を頂いている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>概ね損ねるような対応はしていないが言葉掛け等が好ましくない時がある。</p>		<p>利用者本位という事を念頭に置き、また人生の先輩であることを尊重し介護にあたって行きたい。</p>
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の希望を受け入れながら自分で決めて頂くよう支援している。ケアプランの中に盛り込まれている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の業務が優先で、希望に添わない時があるが、その人の希望に添うように努力している。</p>		<p>出来る限り利用者の希望が叶えられるよう今後も努力して行きたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の望む店に行くことはないが、利用者の希望を聞きながら身だしなみを支援し、出張理美容サービスを活用し、対応している。</p>		<p>利用者の希望を引き出す努力を今後とも行って行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り利用者と一緒に準備をしたり食器を拭いて頂いている。食事は一緒に摂取しておりコミュニケーションを図れる場としている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の疾患・健康状態によって制限はあるが、できる限り希望するものを摂取できるよう対応している。飲酒、喫煙は原則認めていない。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	可能な限りオムツを使用せず、トイレ誘導等で自立出来るよう支援している。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔保持の為に入浴日は決めているが、それ以外でも希望があれば入浴は出来る。一人ひとりが気持ちよく入浴出来るよう支援している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人一人の睡眠パターン、生活状態は把握しており、個別に応じた対応をしている。		昼夜逆転傾向の利用者はいるが、医師とも相談し、睡眠薬を使用せず対応している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に合った役割、利用者同士の楽しみごと、買い物外出等、気分転換を行っている。また個別に介護計画に盛り込まれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて金銭管理をして頂いている。家族の了解を得て苑管理している人であっても自由にお金を使えるように支援している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の勤務職員の人数によって外出が困難な場合があるが、出来る限り外出の支援が出来るように努力している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方が参加できる様な行事を組み、毎月発行のお便りの中にその月に行う行事の日時等をお知らせして、参加を促している。ユニット単位ではあるが、外食やドライブを実施している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は随時電話を掛けている。また、お手紙が書けない方に関しては代筆を通じ本人の気持ちを伝える努力をしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決まっているが、いつでも訪問出来るように対応している。また、家族等が宿泊を希望された時はいつでも受け入れている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケア3原則を管理者は遵守する考えであり、まずはトップの強い意志が必要であることを念頭においている。又これらの研修に積極的に参加させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在離苑の危険性の高い利用者はおらず、また鍵を掛けることにより行動制限があることを理解しており、今後離苑の危険性がある方が入居された場合でも鍵をかけない対応を考えていきたいと思う。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	声掛け見守りにて利用者の状況を常時把握している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管管理場所を定め所在確認を行っている。また、入居時等に私物確認をし、利用者が管理出来ない方である場合は本人・家族と話し合っ詰め所にて管理等を行っている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルに対する意識は薄い、一人一人の状態に応じた事故防止には取り組んでいる。申し送りやヒヤリハット・事故報告書を回覧し、再発を防ぐよう努力は行っている。		マニュアルの再確認、様々な事故の知識を深めていく必要がある。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に訓練は行っていないが、状況に応じて看護師より指導・助言を受けている。		応急手当や初期対応に対する勉強会を定期的に継続して行っていく必要がある。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	双松福祉会独自で行っている地域の自主消防隊の方々も参加し、年2回避難訓練を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	これから起こりえそうなリスクについては随時家族に説明を看護師より行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人の状態観察は常に行っており、体調変化を発見した場合は速やかに管理者・看護師に連絡を昼夜問わず行っている。また、状態の変化は記録記載し、他職員にも伝達を行っている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から発行される内服薬一覧表を確認し、適宜看護師に聞くなど、医師の指示通りに内服出来るよう支援しているが、全員が把握している訳ではない。		よく処方される内服薬など、勉強会などを通して理解を深めていく必要がある。
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘により高齢者が不穏を起こしやすいことに対して理解が薄いですが、毎日の排便の確認、回数を記録している。また、水分摂取やほぼ毎日のリハビリ体操にも取り組んでいる。		便秘のメカニズムなど基本的な状態から再度勉強していく必要がある。
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日3回毎食後、義歯洗浄・うがいなど口腔ケアの支援は行っている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者が自力で食事を摂取出来るよう個々の能力に応じ食事の配置の工夫や、1回に食べれる量を考慮し、随時補食を行うなど食事に関しては様々な工夫を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては年に1回必ず利用者・職員全員予防接種を行っている。ノロウイルスに対しては毎日ハイターを使用し、消毒を行っているが、マニュアルの周知の徹底は出来ていない。		予防・発生時の対応を職員全員把握出来るよう勉強会を行う必要がある。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は加熱用・生食用と区別し、包丁は魚・肉・野菜用と用途別に区別している。必要に応じて使い捨ての手袋を使用している。調理器具は1日最低1回は消毒を行っている。食材も生物は当日購入するように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に利用者参加にてガーデニングを行っており、またボランティアの方々により苑周辺の環境整備を行って頂いていることにより親しみやすい環境作りに取り組んでいる。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには生花・造花・鉢植え・手作りの装飾品などを飾るなど、家庭的な雰囲気作りを行っている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の個々の性格や個性を把握した上で食事の席決めを行っている。また、テレビ横には団欒できるスペースを設け利用者が思い思いに過ごせる空間・居場所作りに工夫を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地元のボランティアの方々の協力により菜園・畑が充実している。また苑の敷地内で四季を通してタラの芽・きのこ・山菜など旬の野菜が収穫でき、味わう事ができる。階上岳を毎日眺めながら自然と共に過ごす環境が整っている。利用者も自然を満喫している。同じ敷地内にはディサービスもあり、行事等一緒に行う事が出来、交流を深めている。